

# UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

# PRESS

## 特集 つながりが 花を咲かせる

新しいコミュニティーが生まれる団地へ



Special Interview

一期一会の出会いを大切に  
挑戦を続ける  
女優でありたい

女優

寺島しのぶさん



01 暮らしのカケラ① 「記憶の感傷ツアー」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす⑩

寺島しのぶさん 女優
一期一会の出会いを大切に
挑戦を続ける女優でありたい



07 特集

つながりが花を咲かせる

新しいコミュニティーが生まれる団地へ

09 みんなの庭でつながる

千里青山台団地 大阪府吹田市

11 子育てを助け合う

港北ニュータウン メゾンふじのき台 横浜市都筑区

13 カフェでつながる

星の原団地 福岡市早良区



15 URのまちづくり最前線⑤

都心の中心地に、緑豊かなにぎわいと交流の拠点をつくる
四谷駅前地区第一種市街地再開発事業(東京都新宿区)

17 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう! その⑩

西宮北口駅周辺(兵庫県西宮市)

19 復興の「今」を見に来て! ⑩

地域のニーズにマッチした災害公営住宅が完成 宮城県気仙沼市・名取市
商業エリア完成 「第2期まちびらき」大盛況! 岩手県大船渡市
にぎわいが戻り始めた海を望む造成地 福島県いわき市

26 届け!笑顔⑧ AKB48 「誰かのために」プロジェクト 東北復興支援

南三陸町(宮城県)



27 ベランダで楽しむ 四季の寄せ植え① 黒田健太郎

基本の丸い鉢に夏の花を植える

28 防災グッズの新常識① 高荷智也

迅速な避難に欠かせない「枕元グッズ」とは?

28 男子弁当のススメ! ⑥ 相田幸二 BBQポークライス弁当

29 プレゼント付きクロスワードパズル

30 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.50
2017年7月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 大日本印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の頁書きは取材時のものです。

表紙の世界

日本の夏といえば花火ですね。
美しい光の粒を見ていると、東の間、
暑さを忘れさせてくれます。
ドーンという音も、
パテた体に活を入れてくれるようです。



イラストレーション
小林マキ

角田光代

暮らしのカケラ

1

記憶の感傷ツアー

同

じ町に二十五年住んでいる。正確には、そのうち四年は
どは隣町に住んでいたけれど、それでも二十年以上、同
じ町内で引っ越しをくり返して今に至る。個人経営の飲
食店と、古書店が多く、商店街が充実した町で、私にはたいへん暮
らしやすい。

町の規模が小さいので、どこかにあたらしい店ができるとすぐ
に話題になる。飲みに行った店や美容院や、町内の知り合いから
「どこでこんな店ができたけど、いった？」と訊かれる。あた
らしい店、とくに飲食店には私も敏感で、散歩しててそういう店
を見つけると覚えておいて、ひとりで飲みに行ったり、知り合いの
だれそれに話題をふったりする。

ごくふつうに暮らしていると、あたらしい店には敏感になる。な
んの店ができるのか、その店が自分の暮らしとどうかかわっていく
のか、真剣に知りたいからである。けれども、消えゆく店はそれほ
どには意識しない。道を歩いていて、ぽっかりと空き地が広がって
いる。あれ、ここ、なんだったつけ、と思う。なかなか思い出せない。
そういうことがよくある。もちろん、常連だったならば話は別
だけれど。

駅

の構内にスーパーマーケットができた。オープン初日は
ものすごい人で、入場制限されて外にずらりと入場待ち
の列ができていた。スーパーマーケットがある光景はま
だ目あたらしく、今も店内はずいぶん混んでいるが、数か月先には
見慣れて意識もしない背景になるだろう。スーパーができる前は、
総菜屋やベーカリーなどの店舗がいくつか入っていた。ワインの種
類が豊富なリカーショップが便利だった。さて、ではその前は……、
と考えてみても思い出せない。スーパーが見慣れた背景になるころ
には、リカーショップのことも総菜屋のことも忘れてしまうのだろ
う。けれどももともとずっと前の景色となると、不思議とはつきり覚
えている。私がこの町に引っ越ししてきたとき、駅の構内にはぼつん
と立ち食い蕎麦屋だけがあった。その光景はなぜか忘れない。

と

きどき私はそんなふうにあえて、今はもうない店を思
い出すことで復元する。思い出せないことも多いのだが、
不思議なくらいはつきりと思い出せる店や通りがある。
今は居酒屋になっていたりある一角は、一年ごとに店が変わっていて、
その変遷すらも覚えていたりする。
今はもうない、ということとは、この先永遠にないということだ。
そのせいで、思い出す店や通りには感傷がついてまわる。そして、
同じ時間の流れでこの町と私は生きているのだと思うのである。

かくた・みつよ
作家。1967年、神奈
川県生まれ。早稲田大
学第一文学部卒業。
1990年「幸福な遊戯」
で海燕新人文学賞を受
賞しデビュー。「対岸
の彼女」(文藝春秋)で
の直木賞をはじめ著
書・受賞多数。最新刊
は「なんでわざわざ中
年体育」(文藝春秋)。



photo・T.Tetsuya

Special Interview

Shinobu Terajima

数々の賞に輝き、国際的な評価も高い実力派女優・寺島しのぶさん。この5月には、フランス人の夫との間に生まれた長男の、歌舞伎初お目見えを見守った。母として妻として、そして女優として忙しい日々を送る寺島さんに、子育てや仕事への思いを伺いました。



# 「一期一会の 出会いを大切に

## 挑戦を続ける 女優でありたい 寺島しのぶ

さん 女優

### 4歳の長男が 歌舞伎初お目見え

今年の5月は、4歳になる息子の歌舞伎初お目見えで、大忙しの1カ月でした。私の父である尾上菊五郎とともに、歌舞伎座「團菊祭五月大歌舞伎」の「魚屋宗五郎」という演目で、酒屋の丁稚・与吉を演じました。本人はいたって平常心のようでしたが、母親の私のほうが心配で心配で、心身ともに疲れました。公演期間中は、1泊3日の弾丸ツアーでカンヌ国際映画祭に出席したのを除き、毎日歌舞伎座に通いました。着物を着てお

客さまにご挨拶をするのですが、これを母（女優の富司純子）は毎月のようにやっているんだと思うと、あらためてすごいことだなんて感じました。歌舞伎の家は、舞台で頑張っている役者と、劇場で支えている妻の共働きだなと思いました。息子本人は歌舞伎が大好きで、2歳のころから昼夜通しで歌舞伎座の舞台を観ても飽きなかったんです。今回もとても楽しかったようで、「次はいつ出られるの？」なんて言っています。将来は、と聞かれることも多いのですが、自分の仕事も含め、どこまでサポートできるか未知

数ですし、臨機応変に、いまはその都度その都度、考えていると思っています。

### いろいろな世界を 知ってほしい

子どもができてから、仕事との切り替えが早くなりましたね。以前は無意識のうちに、常におのとき演じている役のことを考えていたり、私生活でもその役になりきっていることが多かったのですが、いまは息子に「お母さん」と呼ばれると、母親に戻らざるをえないです。健全になつたと言えるかもしれませんね。

セリフを覚えなければならぬのに、疲れて一緒に寝てしまふので、幼稚園に迎えに行くまでの3時間で覚えようとか、時間を有効に使うようになりました。以前のように、好きなきにセリフを覚える生活もいかなとは思いますが、子どもができたことは本当にありがたいので、自分の中で切り替え、集中するようにしています。

子育てで大切に行っているのは、いろいろな人に会って、さまざまな世界を知ってもらうということです。歌舞伎は大人の世界ですが、幼稚園には幼稚園の世界がある。いま住んでいるマン



てらしま・しのぶ  
1972年生まれ、京都市出身。父は歌舞伎俳優の尾上菊之助、母は女優の富司純子、弟は歌舞伎役者の五代目尾上菊之助。青山学院大学在学中の92年に文学座に入団。96年に退団後、舞台、テレビドラマ、映画で活躍。2003年公開の映画『赤目四十八瀧心中未遂』で『ヴァイブレーション』で、第27回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞などを受賞。10年、若松孝二監督の映画『キャタピラー』でベルリン国際映画祭最優秀女優賞（銀熊賞）受賞。07年、日本在住のフランス人クリエイティブディレクターであるローラン・グナシア氏と結婚、12年に長男を出産。

シヨンのコミュニティもあり、習い事のお教室でもまた違う。それぞれの輪のなかで自分がどういう存在であるかを自覚し、いろいろな価値観を身につけてほしい。そして、いずれは自分でどういう生き方をするか選択できる人間になってもらいたいと思っています。

うちの家庭は父親がフランス人、母親が日本人と、異文化そのものです。私がいないと、息子は父親のローラン（クリエイティブディレクター）のローラン・グナシア氏とフランス語でしゃべっていますし、私とローランは英語で会話するので、英語も話せます。すごく羨まし

晴彦さん、廣木隆一監督と一緒できたこと、そして『キャタピラー』の若松孝二監督。舞台では蜷川幸雄さん……。ディープで面白い方たちとお仕事できたのが、かけがえのない経験になっています。

みなさん、「いいよ、いいよ」という感じではなく、なんとか私の違う顔を引き出そうとしてくださったり、いまだに挑戦させ続けてくださる。たとえば、『ヴァイブレーション』では、廣木監督がリハーサル中も内緒でカメラを回していたんです。そこで、わざと挑発的なことを言っていて、「この野郎！」と怒っている顔を撮られていたこともあります。それがすごくドキュメンタリーチックで、自分でも見たことのない顔が映っていてビックリしました。まさに一期一会の奇跡が生んだ作品で、今後もしそういう挑戦をさせてくれる方に出会いたいですね。

## この夏は話題の舞台の地方公演へ

現在は、7月に東京と大阪で公演する「アザー・デザート・

環境だと思いません。

毎年、息子はバカンスでフランスに行っているのですが、フランスのルールも自然と学んでいます。フランス人は休むために働いているといっても過言ではなく、ローランも5月くらいから「バカンス、バカンス」と言っています（笑）。日本人は勤勉だから「そんなに休んで大丈夫かな」と思いますが、実際にフランスに行ってみると、バカンスの間は起きたい時間に起きて、食べて寝るだけ。究極にシンプルな時間を過ごすので、すごくフレキシブルです。ただ、私は昨年、今年と忙しくて行けていないので、来年こそは行かないと、離婚の危機ですね（笑）。

暮らしている場所のコミュニ

シティーズ」という舞台の稽古に没頭しています。家族がテーマの作品で、私は心に病をもった作家の役。家族に関する暴露



今年のカンヌ国際映画祭の批評家週間部門で上映された、寺島しのぶさん主演の映画『Oh Lucy!』（平柳敦子監督）。日本では今秋公開予定。

本を書いて家に戻ってきたことで、家族それぞれの感じている事実と真実の違いや、家族関係が浮き彫りになります。

ティームも、子どもの成長にはとても大切だと思います。いま住んでいるマンションは子どもが多くて、しょっちゅうお友達のおうちに遊びに行つては、一緒にお風呂に入ったり、お泊まりもしています。中庭があるので、鬼ごっこやかくれんぼ、ザリガニ捕りなど、汗をかきながら遊んでいます。親同士もすごく結束していて、子どもの送り迎えを助け合い、情報交換も頻繁です。適度に距離をとりながら、きちんと輪ができています。自分



寺島さんが薄霧太夫/おすず役で出演する六本木歌舞伎「座頭市」。市川海老蔵さんとの22年ぶりの強力タッグが話題に。8月2～7日中日劇場（名古屋）、8月10～14日フェスティバルホール（大阪市）で公演。©Kazumi Kurigami

この物語は、私の境遇とリンクする部分があります。母と娘が同じ職業で、残酷なほど傷つけあった経験や、似たくないと思つても40歳過ぎたら母にどんな似てきたところなど（笑）。私自身、なんでこの家に生まれたんだろう、と思つたこともありました。

でも、子どもが生まれてからは、この子を守るのには私しかないかと強く感じますし、親のありがたみがあるためわがやうになりました。8月には名古屋と大阪で、六本木歌舞伎「座頭市」に出演します。歌舞伎の家に生まれ、男だったら歌舞伎

役者になりたいと思つていた時期もある私への、演出の三池崇史さんと市川海老蔵さんからのプレゼントだと思つて、心から

## 人との出会いが挑戦につながる

より小さい子の面倒を見て、お兄ちゃんたちには自分ができないことを習うなど、兄弟がいらない息子にとつてすごくありがたい環境だと思っています。

芝居に関しては、なんでもかんでも挑戦しますというのではなく、時間的にも物理的にも自分の状況に合ったときに、良い作品を逃さないようにしています。そして、コレと決めたものには入魂します。

出演させていただいた作品では、大切な方々と出会えました。映画でいえば、車谷長吉さんの『赤目四十八瀧心中未遂』という作品での荒戸源次郎監督、『ヴァイブレーション』で脚本家の荒井

感謝しています。

私に歌舞伎ができるかと聞かれたら、やっぱりできないんです。歌舞伎役者は日々の鍛錬、訓練から生まれるということであらためて感じました。でも、この舞台は歌舞伎の要素がすべて入っていて、歌舞伎の特殊な表現方法なども勉強になりますし、歌舞伎の裏側も見られる。私の人生のなかで、すごく大きな舞台です。

約1カ月半、地方公演が続きますが、その間、息子はローランに全部お任せです（笑）。絶対持て余して地方に来ることは間違いないでしょうが（笑）、地方でしかできない楽しみも味わいながら、良い舞台を務めたいと思っています。

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマートフォンから寺島しのぶさんのインタビュー動画がご覧いただけます。（2017年10月末まで）



WEB UR PRESS



新しいコミュニティが  
生まれる団地へ

特集

つながりが

花を咲かせる

一緒に花壇の手入れをする  
仲間がいる団地。

困ったとき、子育てを

助けてもらえる仕組みがある団地。

そこに行けば、いつでも誰かがいるカフェのある団地。

いま、多様な世代が暮らす団地では、人々の「つながり」を模索しながら  
「コミュニティの新しいカタチ」をつくる試みが始まっている。

ベチュニアの苗の植え付け作業の後、  
「みんなのテーブル」で軽食を楽しむ  
千里青山台団地の皆さん。

菅野健児=撮影

# みんなの庭でつながる

## 花壇から団地の新しいコミュニティが生まれる



集会所前に作られた「ハーブの庭」。収穫したハーブで「ハーブソルト」を作り、イベントで配布した。

緑豊かな屋外空間を生かして、歴史ある団地に新しいコミュニティづくりの試みが始まっている。きっかけとなるのは「花壇」。花に魅せられた人々の輪が、少しずつ広がっている。

### 団地の庭に生まれた私たちの花壇

大阪府吹田市、千里ニュータウンにある千里青山台団地は、完成から49年。丘陵地の勾配を生かした広大な敷地には木々の緑が豊かにあふれ、その中にゆったりと建物が配置されている。「朝は鳥の声で目が覚めます。窓を開ければ緑がいっぱいで、風が通り抜け、まるでリゾートにいるような気分です」

村さんはUR都市機構が進める「みんなの庭」プロジェクトに参加して、自分の住む住棟の前に、ステキな花壇を作っている1人だ。「今、咲いているのはカモミール。チューリップは球根を採るために、花が終わってもそのままにしています。もう1つの花壇にはヒマワリを植えています」

千里青山台団地では2年前から、建築家の伊東豊雄さんとともに「みんなの庭」プロジェクトをスタートさせた。担当するUR都市機構西日本支社技術監理部企画課主幹の片岡有吾にその目的を聞くと、「団地の屋外空間に『みんなの庭』を作ることをきっかけにして、新しいコミュニティづくりの試み」だという。

団地が誕生した頃、日本には地景型のコミュニティが健在で、それは団地でも同様だった。だが、時代は変わり、人々は他人との関係性をつなぐ必然性を感じなくなっている。とはいえ、やはり私たちは人とつながることで幸せを感じるのではないか。人と人がつながるきっかけを、団地の屋外空間に求めてみてはどうだろう。そこに現代の新しいコミュニティが生まれるのではないだろうか。

そのような考えのもと、2015年、伊東氏とともにまず「みんなの庭を考えよう」というワークショップを開催した。そこで住民から提案された「BBQができる



花壇には、それぞれ名前と番号が付いている。



右/カモミールの花が咲く花壇と加村さんご家族。上/中田茂世子さん(右)と、一緒に世話をする中川富枝さんの「なでこの庭」。水やりや花がら摘みは当番制だ。

モルタルをこねレンガを積むところから手作りした花壇の前には、1階に住む人から提供されたブロックで敷石を置いた。



庭」は、さっそく集会所前の空間を利用して実現した。「みんなのテーブル」と名づけられ、休みの日には、ここでBBQを楽しむ人々の姿が見られるという。

次に「ハーブの庭を作りたい」という声が上がると、集会所前にハーブの花壇を作った。この世話をしている人は現在7人。その1人である石村至男さんは、少しずつだが団地の中に庭を媒介にした新しい関係が生まれてきたと話す。

「僕の場合、それまで団地の人とのつながりは、子どもを通じた関係だけでしたが、今では離れた棟の人とも庭を通じて知り合いになりました。花壇という空間に人が集まり、人が集まると空間が広がっていくんですね。花壇を通じたコミュニティづくりは、とてもいいアイデアだと思います」

次は何をしようかと仲間とも話はずむという。

花から始まる人とのつながり

現在、団地内にできた花壇は22。そのひとつ、C8号棟前にある「なでこの庭」は、同じ棟に住む中田茂世子さんをはじめとする12人のグループが管理している。中田さんは定年退職するまで仕事一筋で、団地の人との付き合いはほとんどなかったという。

「でも、この花壇作りを通して友達ができました。通りかかった人から『きれいな庭だね』と声をかけられるとうれしいですね」と新たな生きがいを見つけたようだ。とき

には他の花壇を見に行き、「もつとこうしたら」と声をかけることもあるという。

「そうなんです。ここで花の世話をしていると、それじゃ寄せ過ぎだとか、知らない人からいろいろ指導が入るんですよ(笑)」

それが楽しいと話す若い夫婦は、自分たちの住む住棟の前にレンガを積んで、花壇そのものも手作りした。「ここに引っ越してまだ1年と少しですが、団地でこういう暮らしができるのは、考えもしませんでした」と楽しそうに話している。

千里青山台団地の花壇は、少しずつ増えている。その花壇の前に人々の大輪の笑顔の花が咲きはじめた。

石村さんはそれまで土いじりにはまったく興味をなかったという。だが、今では花壇に水やりをしていけば、誰かが声をかけてくれる。採れたハーブを使って、



コミュニティづくりの一環として、5月末に「集会所をベチニアの花で彩ってみよう！」を開催。たくさん参加者が苗の植え付けを体験し、集会所のベランダにプランターを並べた。



苗の植え付け終了後は、集会所前の「みんなのテーブル」で食事会。ハーブチームの石村さん(上写真)が作った料理などをいただいた。



オレンジ色のTシャツを着ている人は、「AsMama」のスタッフやママサポーター。子育てシェアの取り組みを広く知ってもらいたいと定期的に団地内を歩き、親子連れに声を掛ける活動もしている。

## 子育てを助け合える 仕組みをつくる

陽光が降り注ぐ舗道を、ベビーカーを押したお母さんたちが三々五々やってくる。ここは横浜市都筑区にある港北ニュータウンメゾンふじのき台の集会所。「こんにちは！」と笑顔で出迎えるのは、オレンジ色のTシャツ姿のスタッフたちだ。この日開かれたのは親子の「交流会」、UR都市機構が子育て支援の一環として今年1月から定期的に開催している。

「UR都市機構では、高齢者や若者、子育て世帯など、多様な世代



メゾンふじのき台は横浜市営地下鉄「センター南」駅から徒歩7分の好立地。周辺には子育て支援施設が充実しており、子育て世帯に人気が高い。

てながら働き続けられる環境を整えようと、地域の人たちと頼り合える仕組みをつくって、全国に広がる活動を続けてきました。今回の取り組みから始まって、将来的に団地が「頼り合う暮らし」の場になればいいなと思っています」

## 交流会から始まる 「コミュニティづくり」

リトミック体験やおさがり衣服交換会など交流会の内容はさまざま、この日も子どもの手形や足形を押ししたアート作りや、団地の中にできた子育て世帯向けの住戸「UR COCOCHI mama」（ココママ）の見学がにぎやかに行われた。だが実は、交流会の一番の狙いは、参加者たちの関係をつなぐことにある。まずはこの会で顔見知りをつくって話の合う人、接点を持つ人を見つけ、それをベースに助け合いの輪を地域の中に広げていくのだ。



「AsMama」を創業した甲田恵子社長は団地育ち。人間関係が希薄になった現代の団地で、新たなコミュニティづくりの触媒役を務めたいと話す。

# 子育てを助け合う

## 団地からまちへ 地域コミュニティの 輪を広げたい

少しの間、子どもを預かってほしい。お迎えに行ってもらえたら…。そんなとき気軽に頼める子育て共助の関係をつくり、そこからコミュニティの輪を広げていければ。そんな新たな子育て支援の取り組みを開始したメゾンふじのき台を訪ねた。



メゾンふじのき台の集会所で行われた交流会。ママサポーターの女性たちが積極的に会を盛り上げ、参加者同士のつながりを生み出していく。



交流会では、子どもの手形・足形アート作り(上)や、ママ目線の住戸「UR COCOCHI mama」の見学会(下)も行われた。

## 子育てママの「あったらいいな」を形にした住まい 「UR COCOCHI "mama"」

女性目線の企画住戸「UR COCOCHI」をベースとして、さらに子育て中のママにうれしい間取りや設備を取り入れた「UR COCOCHI "mama"」。「ママがいちばん長い時間を過ごすキッチンには、とりわけ力を入れています」とUR都市機構の宇田川尚子。

メゾンふじのき台のプランでは、子どもがお母さんの傍らで勉強したり、調理の手伝いができる広さのあるカウンターを備え、忙しい子育て中のママのために食洗機も設置。リビング・ダイニングと和室が一体となった開放的な間取りにして、常にキッチンから子どもに目が届くようになっている。大きなシューズボックスにはベビーカーも収納でき、感電防止コンセントや浴室のチャイルドロックなどの安全対策も。メゾンふじのき台では一部タイプの空住戸を順次、「UR COCOCHI "mama"」に改修し、募集していく予定だ。



和室のふすまを開けるとワンルームになるリビング・ダイニング。広々としたキッチンがママたちに好評で、右写真の広いカウンターも高評価。和室にはメンテナンスが楽な樹脂畳を使用している。



そのツールとなるのは、SNSを使ったアズママ独自の無料会員サービス「子育てシェア」。知り合い同士で登録し、SNSを通じて子どもの送迎や預かりなど、助けを求めることができる仕組みだ。「頼み、頼まれるのは、知っている人だけなので安心です」と甲田社長は言う。

万が一の事故などを補償する保険制度も整え、預かってくれたシェア友には少額だが時間単位で謝礼を支払うなど、気兼ねなく頼り合える工夫もこらしている。こうした仲間づくりや子育て支援を支えているのが、アズママが認定するママサポーターと呼ばれるスタッフだ。ママサポーターは子育てシェアに参加すると同時に、



交流会参加者たちの声を聞く、UR都市機構の宇田川尚子(中右)と、広橋里江子(中左)。

が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちづくりを進めています。環境や住まいの整備だけでなく、ソフト面での子育て支援策もさらに進めようと、舞台として選んだのが、子育て世帯にも人気の高いメゾンふじのき台です」(UR都市機構ウエルフェア総合戦略部企画課 広橋里江子)

団地を核にして地域で子育てを助け合える「共助」のコミュニティを育てるために、株式会社AsMama(アズママ)と提携。企画運営を担当するアズママは8年前に設立され、子育ての共助コミュニティづくりに取り組んできた事業者だ。甲田恵子社長は、自身も仕事と育児の両立に悩み、奮闘してきたという。

「誰もが安心して子どもを産み育

交流会などのイベントで中心となって活動する。この日も参加者の会話を取り持つて、人の輪づくりの「触媒役」を務めていた。「頼り合う関係をつくるために、みなさんには何度でも参加して信頼関係を築いてほしい。実際にリーダーの方も多くいらつしやいます」と、ママサポーターの中野亜矢子さん。

今後の課題は、団地内からの参加者をいかに増やしていくかで、この日参加した団地に住むママも、「同じ年頃の子を持つ人と話ができるのでぜひまた参加したいが、団地の人がもつというとうれしい」と語っていた。ポイントは人の輪づくりの要となるママサポーターを団地の中から発掘すること。UR都市機構はアズママと共にその策を検討中だ。

アズママとの取り組み期間は3年間だが、終了後も子育てを助け合えるコミュニティが自立して、続いていくことを目指している。メゾンふじのき台をモデルに、やがては全国にこの取り組みが広がる明日へ。取り組みはまだ始まったばかりだ。



「星の原やすらぎ食堂」の本日のメニューはカレーとケーキ。ケーキは福岡市のフードバンクから仕入れたもの。開店と同時に子どもたちが並んでいた。



星の原団地は築45年、2000戸以上の大型団地。空室が少ない人気の団地で、高齢化率も高いが、子育て世帯にも人気がある。

この日のカフェのイベントには、福岡大学医学部看護学科の先生と学生さんが参加。夏の健康管理のお話や、クイズ、転倒防止体操などで楽しんだ。



カフェや食堂を中心になって運営する団地のボランティアメンバー。右から本岡美津子さん、川口雅世さん、新貝由紀子さん、藤村せつ子さん、福地美代子さん。



団地の中心にある集会所。ここがカフェと食堂になり、カフェ開店の日には、すぐ横で道の駅の出張販売が行われる。

星の原団地  
福岡市早良区

# カフェでつながる

## ここに来れば誰かがいる 団地の安心交流拠点が 生まれた

福岡市にある星の原団地では、「コミュニティづくりを目指してカフェと食堂を始めた。するとここに外部からも人がやってくるようになり、交流の輪が広がり始めている。」

### 多世代が集う カフェが大盛況

次々に並ぶ朝採れ野菜を目当てに、団地のあちこちから人が集まってきた。ここは福岡市郊外にある星の原団地。第3土曜日の今日は、11時から集会所脇で、添田町にある道の駅「歓遊舎ひこさん」の出張販売がある。買い物物を済ませた女性たちは、そのまま連れ立って隣の集会所にある「星の原カフェ」に入ってしまった。

星の原団地でカフェが始まったのは2015（平成27）年10月。団地の課題解決に向けてさまざま

な大学との連携を進めるUR都市機構九州支社のなかで、星の原団地では福岡大学の地域活性支援塾の学生たちとの交流が始まった。「約5000人が住むこの団地も高齢化が進み、高齢者の一人暮らしも増えていきます。その高齢者から子どもたちの声への苦情が寄せられることがあり、その問題を学生たちもまじえ、団地町内会の方々と話し合う勉強会を始めたのです」とUR都市機構九州支社の団地マネージャー中村直寿。

「子どものことを理解すれば騒音と感ずることはないと思うので、まず高齢者と子ども、若い人たち



UR都市機構の中村直寿は、食堂で使う食材の調達も担当。企業や一般の方からの支援を呼びかけている。

んです。親が働いている子どもも多く、夕食は子どもだけで済ませることも少なくない。それは高齢者も同じです。そのころ『こども食堂』の活動が全国で始まっていたので、この団地版を始めてみようかと話が進みました」

こうして2016年8月、「星の原やすらぎ食堂」が始まった。集会所を使ったカフェは毎月第3土曜の11時～15時だが、偶数月には同じ場所で17時～19時に食堂を開くことにした。カフェ運営の5人を中心に、団地の人たち、福岡大学や中村学園大学の大学生たちもボランティアで参加する。メニューは豚丼やカレーなど。大人200円、子ども100円を払えば、子どもから高齢者まで誰でもOK。「ここでみんな一緒に楽しく食べよう」がコンセプトだ。始めてみると利用者は回を追うごとに増え、現在では1000人を超える人が食事に来る。そのうち



「団地の人たちが自主的に活動する基盤づくりが目的でした」と話す、福岡大学地域活性支援塾の初期メンバーたち。

が交流できる場をつくっては、と提案。それがカフェにつながりました」と地域活性支援塾の当時のメンバーが振り返る。さっそくカフェをのぞいてみると、5人の女性たちがカウンターでコーヒーを入れ、客席を回っている。団地町内会でのこのカフェを運営するボランティアの人たちだ。「『こういうのを待ってたんよー』と喜ばれました」と話すのは本岡美津子さん。カフェには高齢の方はもちろん、赤ちゃんを抱いたママなど、さまざまな年齢層の人がやってきて、その時々イベントに参加したり、おしゃべりしたり、思い思いに過ごしている。同じ時間に行われる道の駅の出張販売との相乗効果もあるようだ。「今日は野菜を買ってからカフェのイベントに参加して、お昼過ぎまで過ごします」という一人暮らし

の約6割が小学生だ。食堂があるときは、16時から集会所を開放し、大学生のボランティアが子どもたちの勉強を見たり、一緒に遊ぶ時間を設けている。九州TSUTA YAと個人から寄贈された古本図書館も開かれ、食堂が始まる17時を待つ。

「やっぱり大勢で食べるとおいしいねえ」と、同じテーブルの子どもにデザートケーキを分けていたおばあちゃんもうれしそうだ。カフェから始まった星の原団地の活動。「ここに来れば、なんでも相談できる。情報が得られる。そういう場にしよう」と皆さんの気持ちちはひとつになっている。カフェや食堂を通じて団地の課題や問題を見つけたら、それをどこかにつなぐ。中村は言う。

「そのために、できないことは遠慮なく外部の力を借りて、いろんな人に関わってもらおうというスタンスです。いまこの団地には道の駅の人や、介護関係、大学や地域の小学校の人など、いろいろな方が来られるようになり、交流が生まれ、何かが動き始めています。けっして急がず無理をせず、この活動を続けるつもりです」

### 外部の人も巻き込んで 団地を交流拠点に

カフェを通して団地の様子が見えてくると、今度は別の問題にみんなが気づいたと中村は言う。「子どもたちの様子が気になった





再開発協議会の会長である齊藤源久さん。四谷生まれで、現在もこのまちで事業を営んでいる。

この日は掘削状況の確認が行われていた。



「四谷のまち、ひいてはUR再開発のブランディングができるような建築物を目指す」と話すURの松田一慶。



「四谷のランドマークとして多様な人が集まるまちに」とURの田村一馬。

2020年度の完成をめざし、日々緊張感のある仕事が続く。



上/昨年度に着工し、現在、工事が進む現場。

右/事業パートナーである三菱地所の樋口知美さんは、「お互いの強みを生かしながら、魅力あるまちをつくりたい」と語る。



四谷駅前再開発事業の完成予想図。四季を感じられるようにさまざまな樹種を三次元的に配置し、緑とふれあう新しいまちが誕生する。

URの  
まちづくり  
最前線 5

# 四谷駅前地区第一種市街地再開発事業 東京都新宿区 都心の中心地に、緑豊かな にぎわいと交流の拠点をつくる

東京都心の中心部に位置し、外濠の豊かな緑に恵まれたまち、四谷。JR中央線と東京メトロ丸ノ内線・南北線が集結する四ツ谷駅前、いまUR都市機構が中心となって大規模な再開発が進められている。

## ランドマークとなる 大規模複合施設の開発

JR四ツ谷駅を出て、外堀通りを渡ってすぐ右手。工事用の堀に囲まれた一帯では、目下シヨベルカーや土砂搬出用のダンブカーがフル稼働中だ。ここが現在UR都市機構が手がけている四谷駅前地区再開発事業の現場。2020(平成32)年には、外堀通り沿いの約2・4ヘクタールに、超高層ビルと低層の建物が連なる新しいまちが姿を現す予定だ。敷地内の広場と低層建物の階段状のテラスを緑化して、外濠公園からつながる美しい緑が空間を彩る計画になっている。「オフィスや商業施設、住宅はもちろん、教育施設や新宿区の公益施設も入り、31階建てのビルは四谷地区で初めての超高層建築になります」

UR都市機構東日本都市再生本部の四谷駅前再開発事務所、事業計画を担当

大規模地権者と、ここに住んだり事業を営んだりしてきた地権者は合わせて約60名。借家人も入れると170名以上にもなる。国・公共団体・事業者・個人と、異なる性格をもつ多くの地権者に対して、公平・中立な立場でアプローチできるのがURの強み。だが、立場や要望、土地への思いはそれぞれ異なり、調整には長い時間と粘り強い話し合いを必要とした。再開発協議会の会長、齊藤源久さんは、「官舎と小学校が廃止されたタイミングがほぼ同時期だったから、この規模での再開発事業に踏み出せました。公的な性格をもち、公共の利益を考えるURだから遂行できたのかもしれない」と振り返った。

## 事業パートナー制度で 各々の強みを生かす

今回のケースでは、URの再開発事業としては初めて事業パートナー制度を採用していることも見逃せない。これは計画の早い段階から民間事業者が事業に参加し、建設するオフィス、商業施設や集合住宅の権利を取得する一方で、商品企画や管理運営などへの提言やアドバイスを行う。民間ならではの視点やノウハウを開発に生かせることに加え、パートナー企業にとっても自社に合わせた建物仕様などの要望を反映しやすいメリットがある。パートナーである三菱地所株式会

する田村一馬は説明する。プランニングでは、駅前の立地を生かしたにぎわい交流拠点をつくることを目的に、①防災性の高い広場空間をつくる ②官舎や小学校などの大規模な跡地の有効活用 ③道路の拡幅や歩行者用通路の整備によって快適で安全、かつ緊急時には避難路になる歩行環境の確保、という大きく3つの課題解決を目指しているという。

かつてこのエリアは、財務省官舎と新宿区立四谷第三小学校が3分の2ほどを占め、通り沿いに住宅や商店が並んでいた。再開発への気運が高まったのは10年ほど前。URは豊富な再開発事業の経験とノウハウをもつことから、地権者が結成した四谷駅前地区再開発協議会からの要請を受けて、2006年度から事業に関わるようになった。

田村によれば、地権者の数の多さに加え、多様なこともこの地区の特徴だという。「国(財務省)」「新宿区」といった社の担当者、都市開発二部の樋口知美さんは言う。「弊社が長年培った経験を基に、建物を取得するオーナーの立場、そして建物を管理運営していく管理者の立場から、さまざまな提言をしています。私どもでは個人の地権者が多く、これほど大規模な開発を手がける機会はなかなかありませんので、URさんの仕事を目の当たりにする得難い機会。勉強になります」

URで現場を担当する東日本賃貸住宅本部四谷駅前技術監理課の松田一慶は、「今も毎日のように事業パートナーや新宿区との協議、設計者や工事施工者との打ち合わせなど、会議の連続」だと言う。その一方で、この地区内に新店予定の地権者を集めて勉強会を開き、再開発でつくれた都内の商業施設を見学するなど、より良いまちづくりへのルール策定のお手伝いも行う。URの担う業務は、驚くほど幅広く、きめ細かい。「これまでの人の流れを変え、土日にもにぎわいを生み、四谷の良さを発信できるまちにしたい」話を伺った人全員が、新しいまちへの期待をそう語る。今後は「どういうコミュニティをつくるか」「どうブランディングしていくか」をURと地権者、民間事業者が一体となって考えていく。四谷の魅力さをさらに輝かせるその日まで、URの地道な努力が続いていく。

URのまち

あのまち このまち  
歩いてみよう! その11

兵庫県  
西宮北口駅周辺

URが手がけた土地が、時を経て、素敵なまちに育ちました。地図を手にとって歩いてみませんか?

開発前	開発期間
アクト西宮 住宅・店舗等	1996年~2001年

※阪神・淡路大震災からの復興を目指し、まちづくりが行われた。

関西圏住みたいまち第1位!  
西宮北口、愛称“にしきた”は  
四つ葉のクローバーのようなまち!

テイストが異なる4つのエリアはどこも魅力的です。芸術文化センターや阪急西宮がデーンズができて、乗客数も三宮を抜きました!

ボランティアガイドは一期一会、いろいろな地域の方に、にしきたの魅力を伝えます。

24名で活動中のボランティアガイドチーム

ツリズム西宮奈らく探見隊  
関 秀子さん・比留井 弘司さん

協同組合アクト西宮振興会  
理事長 林 茂治さん

昭和12年にラジオで放送された「春の唄」のモデルは西宮北口市場。アクトを象徴する曲です。阪神・淡路大震災復興後も「音楽の街にしきた」を盛り上げています!

希望の架け橋としてURが手がけた震災復興事業

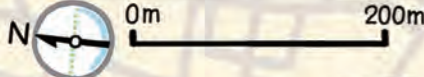
個人商店+大型店+公共施設  
=アクト

公募で決定!  
アクティヴタウン  
=アクト

にしきた復興の出发点!  
にしきたっ子に愛され続ける地元密着型のショッピングセンター

アクト西宮  
北口市場・本通商店街跡地  
2001年4月OPEN!

「春の唄」の歌碑



「白神こだま酵母」で焼き上げた、体に優しいパンが並ぶ

パン工房りょう

一段ごとに  
女厄坂 33段

厄を落とす  
男厄坂 42段

高野山金剛峯寺より賜った樹齢800年の霊木

延命魂(根)

門戸厄神東光寺  
弘法大師が829年に開いた。愛称「厄神さん」

神戸女学院

W.M.ヴォーリス設計

スペイン・ミッシェン・スタイルの校舎が美しい(見学は要予約)

信徒伝道者として来日

多くの建物を設計

近江兄弟社を設立

W.M.ヴォーリス

西宮には多くの人が日常的にケーキを食べるまち。みなさんに満足していただけるケーキを作り続けていきたいです。

パティシエエイジ・ニッタ  
オーナー 新田 英資さん

地域の子どもたちの笑顔が嬉しくて、クッキー1枚からおいしいクッキーまで心を込めて作っています。カスタードクリームが自慢のシュークリームは1個140円です!

西北菓子工房 シェ・イノウエ  
オーナー 井上 成大さん  
クッキー作家 由樹子さん

今津線は有川浩の小説「阪急電車の舞台」映画化もされて大ヒット!

阪急電車  
アルミボディでも全面塗装!  
明治43年から続く「阪急マルーンカラー」

マホガニー調プリントで統一。ネジ不要のはめ込みパネルで、スッキリ!

アンゴラ山羊の毛で織り上げた「ゴールデンオリブカラー」のシート

にしのみや洋菓子研究会

西宮にはオナーパティシエが丹精込めてケーキを手作りする「工房型」ケーキ店がたくさんあります。15店で協力して、さらに盛り上げています!

西宮市立北口図書館 (東館5F)

酒蔵をモチーフにしたデザイン

アクト西宮ステーション (西館3F)

どっちも便利!  
土・日・祝もあいている市役所出張所

パティシエエイジ・ニッタ  
こんなケーキが食べたかった!と実感する幸せなおいしさ  
受賞歴多数!  
「TVチャンピオン」優勝ケーキのミルフィーユ

ぱん屋五穀七福  
日本伝統の素材にこだわった大人気パン屋さん

ほんのり甘い「五穀七福ぱん」

西宮市環境学習サポートセンター内ミニミニ水族館

津門川など西宮市内の河川の魚等を展示。楽しい!

こんな水槽も♡

「ポンテリカ」  
逆から読むと...震災後の仮店舗商店街の名前がビルの名前として残る

にしきた商店街  
塾銀座!ほか証券・銀行・飲食店などが集まるエリア

番馬亭  
名物のカレーそば・うどんが超おいしい!

麺処ばっは  
ラーメンもつけ麺も魚介だしが絶品

西北菓子工房 シェ・イノウエ  
小さな店にある西北愛とケーキ愛♡

西宮の古社・廣田神社で祈禱を受けた「合格」コテの焼印入り!

合格マドレーヌ

名神高速道路

1973年からこの地で営業「地元のおいしい洋食」といえばこのお店!

ランチでも大人気!定番ハンバーグ

洋食とワインの店 土筆苑

開放感あふれるオシャレな屋上庭園に...

西宮球場のホームベースが!

当時と同じ場所! スカイガーデン(4F)

高松ひなた緑地  
ダイヤモンドクロスの実物レールを保存

阪急西宮ギャラリー(5F)

西日本最大級!広々オシャレなショッピングセンター

阪急西宮ガーデンズ(阪急西宮)球場跡地  
2008年11月OPEN

阪急今津線

市民の憩いの場  
高松公園

年間約50万人動員!地域に愛されるパブリックシアター

津門川

芸術監督は佐渡裕氏!

兵庫県立芸術文化センター  
2005年10月OPEN  
大・中・小3つのホールで多彩なコンサートやイベントを実施

兵庫芸術文化センター管弦楽団のコンサート

地域コンサート

野菜ビストロ レギューム  
有機野菜の蒸し料理がヘルシー&美味

地産地消

ピオワイン

神戸三宮

右/5月28日に気仙沼駅前住宅駐車場棟で開かれた「気仙沼市災害公営住宅整備完了・入居式」でのテープカット。右下/左から菅原茂気仙沼市長、入居者の高橋清夫さん、UR都市機構副理事長 石渡廣一。当日は餅まきも行われた。



まちのランドマークとなる高層住宅が完成しました！



南郷住宅を皮切りに、四反田住宅、幸町住宅、内の脇住宅、鹿折南住宅の災害公営住宅を市に引き渡してきた。そしていよいよ最後となったのが気仙沼駅前住宅で、これにより請け負った1033戸のす

係者に伝えた。敷地を最大限生かす設計や工法で気仙沼市建設部建築・公営住宅課災害公営住宅係技術主幹の千葉

すべての引き渡しは完了した。5月28日に開かれた「気仙沼市災害公営住宅 整備完了・入居式」では、気仙沼市建設部建築・公営住宅課の沼倉敬課長による事業経過報告を受け、UR都市機構副理事長の石渡廣一が、無事すべての災害公営住宅が完成できたことへの感謝を関



気仙沼駅前という交通利便性、生活利便性の高い地に立つ気仙沼駅前住宅。右の12階建ての2号棟(64戸)は2016年10月に先行して引き渡し、13階建ての1号棟(130戸)が2017年5月30日に引き渡された。

復興の「今」を見に来て！  
第10回 Part1  
気仙沼市 名取市  
宮城県

## 地域のニーズにマッチした災害公営住宅が完成

WEB UR PRESS



「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマホからドローンで撮影した気仙沼の動画がご覧いただけます。

気仙沼市

市内一の高さを誇るランドマークに



宮城県最北端の気仙沼市。まちの玄関口であり公共交通機関の拠点でもある気仙沼駅のすぐ脇に、5月末、市内唯一の高さを誇る建物がお目見えした。13階建ての1号棟と12階建ての2号棟からなる災害公営住宅「気仙沼駅前住宅」だ。「この地方でこのような高い建物は見たことがなかったので、驚きました」

と話すのは入居者の高橋清夫さん。仮設住宅での生活ではなかなか将来像が描けず不安を抱くことも多かったが、気仙沼駅前住宅の広々とした部屋への入居が決まり、安堵していると言う。この住宅を希望したのは、病院や買い物へのアクセスの利便さから。高橋さん夫妻は4階に、高齢のご両親が2階にという近居スタイルも安心感があると喜ぶ。

気仙沼市のランドマークともなった、この気仙沼駅前住宅の建設を担当したのはUR都市機構だ。気仙沼市で市街地の災害公営住宅の整備に取り組みUR都市機構は、2015（平成27）年1月の市営

間取りは1LDKから4DKまで6種類。



現場で設置する工法を採用し、工期と労務の短縮に努めてきた。住宅棟の道路に面した部分にはゆとりある歩行者空間を設け、ベンチなどを配置して、駅前通りの方々の交流を深める工夫も施し





内部外部ともにバリアフリーの高柳東団地。入口にはベンチを置き、談話スペースを設けている。また一時避難場所としても利用できる広場や吹き出しなどができる「かまどベンチ」「防災トイレ」など防災機能も充実。

高柳東団地の鍵渡し式。UR宮城・福島震災復興支援本部長 佐分英治(右)から山田司郎名取市長(左)へ、そして入居者代表の遠藤一雄さん(中央)へ鍵が渡された。名取市は自然豊かでありながら、鉄道や空港、高速道路などのインフラが整っていて人口が増加中。



名取市

まちづくりの仕上げは、ここに住まう移転者の皆さんです!

この1年間で市内では約600戸の災害公営住宅の引き渡しがあり、それにかかわる緊張感を伴う業務を担当してきた石渡直樹。最後の引き渡しは、うれしく喜ばしいけれど、ちょっとさみしくもあると語る。



備したことを説明した。「完成見学会に来られた入居予定の方に、待ってよかった」と言っていたのが、うれしかったですね。震災から6年経ちましたが、用地探しから苦労したので、よくぞここまで来られたと思います」と振り返るのは、名取市震災復興部復興まちづくり課の郷内秀稔課長だ。UR都市機構は名取市と連携しながら、将来、災害公営住宅が社会ストックとなることを考慮して、多世代や地域の方々とつながる住まいづくりを

皆さんと一緒に草花を植えて育てましょう!

UR都市機構の佐藤景洋(左端)は、宮城県内のUR関連の式典の裏方・司令塔としても不可欠な存在。



「入居者の方々もですが、地域の外から新たな住民を受け入れる周辺の方々も不安をもっていると思うので、隣近所に住む人の顔がわかるような交流のきっかけをつくりたいと思いました」

「入居者の方々もですが、地域の外から新たな住民を受け入れる周辺の方々も不安をもっていると思うので、隣近所に住む人の顔がわかるような交流のきっかけをつくりたいと思いました」

UR都市機構宮城・福島震災復興支援本部住宅整備部住宅計画課主幹 佐藤景洋はそう言いつつ微笑む。東日本大震災の復興支援にかかわって5年目となる佐藤は、災害公営住宅完成時の鍵渡し式ほど

「鍵を受け取られる瞬間は、入居者皆さん様に笑顔です。裏方として間近でその笑顔を見られ、喜びを感じられるのは幸いです」



大学時代から東日本大震災のボランティアにかかわってきたUR都市機構の白幡玲子。卒論のテーマは復興まちづくり。そのときの学びと経験が仕事にも生かされている。入社2年目。



宮城県南部の名取市でも、6月1日に市営住宅高柳東団地が完成し、鍵渡し式が行われた。UR都市機構が名取市で建設を担当した災害公営住宅としては、美田園北団地(集合住宅)に続いて2地区目となる高柳東団地は、田畑が広がる田園地帯のなかにゆったりと

高柳東団地は5階建て50戸で、間取りは1LDKから3LDKまで。気候風土に配慮した住棟配置が特徴で、仙台平野の強い北西風や高速道路からの騒音の影響を受ける面を最小限とし、蔵王連峰への眺望を生かした配置になっている。北側の住宅や畑の日当たりにも配慮した設計だ。

またUR都市機構復興支援統括役の新居田滝人は、地元の方や関係者へ、この日を迎えられた感謝を伝え、東日本大震災の復興支援のため東北3県にUR都市機構から400人を超える職員を派遣し、約5800戸の災害公営住宅を整

## 蔵王を望む田園に高柳東団地完成

建っている。



1号棟の47戸はペット共生住宅。ペットを大切にしている方も多く、災害公営住宅でもペットが住めるように配慮した。ペット共生住宅側のエレベーターには、ペットと一緒に乗車することを知らせるペットボタンがある。

完成した住宅を感慨深く見守るのは、計画から携わってきた気仙沼市建設部建築・公営住宅課災害公営住宅係技術主査の三浦克哉さん。「震災直後は何から手をつけていいのか途方に暮れていましたが、始まりがあれば、終わりがあるんだなあと、ほっとしています」

「URさんには1日も遅れないようにとばかり言って大変ご迷惑をおかけしましたが、しっかりと実力を見せていただきました」

「東日本大震災ではつらいことがたくさんありましたが、一方で震災を機に、日本中、また世界各地からさまざまな人とのご縁をいただきました。出会った方々の発想力、行動力をお借りしながら、地方ならではの豊かな生活を創出していきたいと思います」



上/施設の大型模型で遊ぶ子どもたち。  
左/広々としたコミュニティスペースは、巣箱に色を塗ったり、流木などでデコレーションする親子連れで大にぎわい!

**市民の方々に  
楽しく利用いただける施設に  
するのが目標です!**



新しい施設の模型を前に抱負を語るUR都市機構岩手震災復興支援本部のメンバー。右から梅本大輔主査、杉田典夫主幹、中村久主幹、田中郁恵主査。



見て、見て!  
きれいにできたでしょ!

色も模様もさまざまな巣箱を手に、笑顔いっぱいの大船渡の子どもたち。

復興の「今」を  
見に来て!  
第10回 Part2  
大船渡市  
岩手県

# 商業エリア完成 「第2期まちびらき」大盛況!

向けのワークショップを行っていた。家具や人型などを動かして施設の利用方法を考えられる趣向で、子どもたちが「こっちに椅子を置こうよ」「ここに座ってお菓子を食べたい」などと楽しく遊ぶ姿も見られた。

「この施設は、普段は市民の方々の交流の場として使っていたが、津波が発生したときには逃げ遅れた人が一時避難できる建物として建設するものです。今回のワークショップは、市民の皆さんに施設のことを知っていただき、どんな使い方をしたいかを一緒に考えてもらいたいとURと協力して開きました」

大船渡市災害復興局大船渡駅周辺整備室主幹の藤原秀樹さんはそう語る。このワークショップは大船渡市に提案したのはUR都市機構だ。大船渡市内の土地画整理事業と津波復興拠点整備事業、災害公営住宅の整備を担当しているUR都市機構は、建設中の当施設でもさまざまな提案を行っている。ワークショップでは、施設の使い方をイメージしやすいようにさまざまな写真を用意。訪れた人からのアイデアを付箋に書き出し、ボードに貼り付けていった。「壁

**着**々と復興への歩みを進める、岩手県大船渡市。昨年3月には、先行して整備を進めていた大船渡駅周辺地区の基盤整備が完了、「第1期まちびらき」

がにぎにぎしく開催された。続いて今年の4月29日には、「キャッセン・フードビレッジ」「キャッセン・モール&パティオ」「キャッセン・ドリームプラザ（おおふなと夢商店街）」の商業施設がオープン。既に開店している大型スーパーなどを含めた商業エリアの完成に合わせて行われた「第2期まちびらき」は、この日を待ち望んだ多くの人でにぎわった。「キャッセンとは、この地方の言葉で『いらっしやい』という意味



須崎川の親水公園をはさんで、鮮魚店や雑貨店、飲食店などが立ち並びキャッセン大船渡。歩道も広く、まち歩きも楽しめる。

を使つてのボルダリング」「岩手県沿岸でも開催されるラグビーワールドカップのパブリックビューイング」「お茶っこ」など、多彩なアイデアが続出した。「ワークショップの意見で面白かったのは、外の広い階段に灯籠を並べて飾る『夢灯り』。地元の風習をふまえた、こうしたアイデアを最終の仕上げなどに生かしていきたいです」と設計を担当したUR都市機構岩手震災復興支援本部住宅整備部住宅整備課主査の梅本大輔は語る。

新たな施設では、目的や集まる人数によって自由に空間が変えられるよう、多くの壁が可動式。通常は4〜7つの部屋に区切ることができ、全部取り払えば、200人が集える大ホールにもなる。各部屋はガラス張りの中で活動が見えるため、外と中が自然に交流できる配慮もする。

「災害への備えとしては、構造の強度を通常より1・25倍以上強くしています。1階は波が来ても



「魅力的なまちを維持継続していくのがこれからの課題」と語るキャッセン大船渡取締役の臂徹さん。大船渡のまちづくりにかかわって2年半になるという。

です。7棟に分かれた建物には、震災前からこの地域で営業していた商店や飲食店に加え、新たに若い人向けの雑貨店なども出店しています。「雰囲気がよくていいまちになった」と声をかけていただき、うれしいですね」

と大船渡市のまちづくり会社、キャッセン大船渡取締役の臂徹さんは顔をほころばせる。キャッセン大船渡は、5月6、7日に白木の巣箱にペイントやデコレーションをする「バードハウス大作戦」を開催。まちびらき関連イベントのなかでもひととき人気を集めた。

**安全と交流の拠点、新たな施設を建設中**

その横では大船渡市とUR都市機構が、来年の春、大船渡駅前にオープン予定の施設の大型模型を展示し、施設の利用者となる市民



建設中の施設の仮囲いに、新しく巣箱が加わった。

逃げるように壁のないピロティにし、2階以上は東日本大震災と同規模の津波でも浸水しない高さ。大勢が同時に避難できるように建物外部に大階段を設け、500人が72時間生命維持できる発電機と飲料水や簡易トイレなどを収納可能な備蓄倉庫も備えています」

UR都市機構岩手震災復興支援本部住宅整備部住宅整備課主幹の杉田典夫は話す。

「市とタッグを組んで以降、将来的にも維持管理できる規模、防災機能のあり方、さまざまな運営を可能とする可変性などについて徹底した議論を重ね、今の計画になりました。

このような市民が参加できるイベントをきっかけに、施設のオープンが待ち望まれるような雰囲気をつくっていきたいですね」

イベントで子どもたちが仕上げた巣箱は、建設中の施設の仮囲いに展示。純白の壁をカラフルに明るく彩る様子は、新しい施設を心待ちにする人々の心のうちを物語っているかのようだ。



今年の3月3日に移転オープンした「南三陸さんさん商店街」で、南三陸町のオクトパス君と記念撮影するメンバーたち。

**参加メンバー**  
**大家志津香 久保怜音 後藤萌咲**  
**福岡聖菜 小栗有以 北原里英**



南三陸さんさん商店街でのミニライブ。



今年の4月23日にオープンした「南三陸ハマレ歌津」で、ミニライブを終えて観客と記念撮影。

今年で6回目の被災地訪問となった後藤萌咲はこう言う。「いつも思うのは笑顔が温かいこと。自分の悩みなんかちっぽけに感じて、パワーをもらえます」AKB48だからこそ続けられるこのプロジェクト。笑顔の交換会はまだまだ終わらない。

塩屋崎灯台から眺める薄磯地区。風光明媚な地に整備された宅地は、昨年3月から順次引き渡され、今年7月末で185区画すべての引き渡し完了。



復興の「今」を見に来て！  
**第10回 Part3**  
**いわき市**  
**福島県**

# にぎわいが戻り始めた海を望む造成地

**陽** 光を浴びてきらめく遠浅の海。その青い海に臨むように広がるいわき市薄磯は、東日本大震災で多くの人の命と家屋が失われた地域だ。海岸線と住宅地の

間には防潮堤と高さ約10メートルの防災緑地を設け、低地部と約20メートルの高台に宅地を整備する復興計画のもと、工事が進められてきた。そしてついに低地部と高台を含めすべての宅地の整備が終わり、順次行ってきた地権者の方への引き渡しが7月末に完了。すでに住宅の建築も始まっていて、海岸沿いには駐車場として利用できる交流多目的広場も完成した。「みんなで力を合わせると、本当にできるんだと驚いています」整備された宅地と広場を眺めながらそう話すのは、UR都市機構いわき復興支援事務所市街地整備課主査 栗城英雄だ。いわき市と協力協定を結んでいるUR都市機構は、薄磯と豊間の2地区の区画整理事業を担当している。栗城は



東日本大震災前は年間26万人が訪れる県内屈指の海水浴場だった薄磯海岸。7月15日は安全祈願や海開き式に続き、「海まち・とよまパークフェス」が開催された。海開き式ではフラガール甲子園出場校によるフラダンスの披露も。交流多目的広場に地元の飲食店など約40店が並び、ライブなど多彩なイベントが繰り広げられた。

どんぐりを育てて防災緑地に植えるプロジェクトをはじめ、薄磯の復興を盛り立てるさまざまな企画を提案・サポートしているUR都市機構の栗城英雄。出勤前のサーフィンなど、いわきでの生活を楽しんでいる。

たくさんの人に訪れてほしいです！



そのスタート当初からのメンバーで、震災後の薄磯の荒れ地を初めて見たときには、4年半で今のようない状態にまで整備できるとはとても思えなかったと振り返る。実現できたのは、「地元や行政の方

と共に、みんなで協力して前向きに取り組んできたからこそ」だ。7月15日、薄磯では宅地の完成を祝う式典と海開きが行われた。式典では多くの参加者が新たなまちの誕生を祝い、今後の期待に胸をふくらませていた。

## 喜びあふれる宅地完成式と海開き

薄磯の海開きは7年ぶりとおつて、地元の人たちの喜びもひとしお。当日は「海まち・とよまパークフェス」のほか、薄磯をはじめ近隣の豊間、沼内の3地区をバスでまわり、各地域の魅力を伝える「海まち・とよま周遊ツアー」も開催され、震災当時の様子や復興事業の概要についても説明された。パークフェスも周遊ツアーも、行政や地元団体の協力で実現したもので、栗城をはじめ呼びかけたUR都市機構のメンバーも裏方としてサポート。大勢の人が集まって大盛況だったこの日は、薄磯に人々が戻り始める節目の日ともなった。

## 届け！笑顔

AKB48  
 「誰かのために」プロジェクト  
 東北復興支援  
 宮城県  
 南三陸町  
 南三陸さんさん商店街  
 南三陸ハマレ歌津

## 笑顔と歌とダンス、AKB48と復興地の交流はいまでも熱い

**64** 回目となったAKB48「誰かのために」プロジェクトの訪問先は、宮城県南三陸町。5月4日、南三陸さんさん商店街と南三陸ハマレ歌津でミニライブを開催した。どちらも震災後に新しく開設された商店街だ。AKB48が元気いっぱい笑顔でふりまくと、ミニライブに訪れた人たちが、それを上回る大きな笑顔で応えてくれた。

北原里英は「商店街も賑やかだし、皆さんの笑顔もすごくよかった。復興がしっかりと進んでいるんだと肌で感じました」と話す。「南三陸町はおいしいものがいっぱい。タコソフトがおすすです」と教えてくれたのは大家志津香。「タコソフトのタコは蛸じゃない。実はトマトなんです。でもこれが本当においしい！」



竹居鉄也=文、竹居鉄也、©AKS=撮影

妹尾和子=文、青木登=撮影



## プロが指南! 防災グッズの新常識 ①

### 予備のメガネ・笛

メガネや補聴器など、ないと行動に支障が出る道具は必ずスペアを準備。閉じ込められる恐れがある場合は、笛も用意したい。

### スリッパと手袋

ライトがあっても、暗闇の中では割れたガラスや落下物で手足をケガしやすくなるため準備。余裕があれば靴下もあるとよい。

枕元グッズはポーチや袋に入れ、地震の揺れでも飛ばされないように、ベッドマットや布団の下、またはベッドの柱にしばりつけておく。布団から手を伸ばせば届く範囲に準備を。

### LEDライト(懐中電灯)

夜間に停電すると、明かりがなければ行動不能に。携帯電話は地震の揺れで飛ばされてなくなる恐れがあるため、必ずライトを用意。

枕元にまとめて用意しておくもの



LEDライト、折りたたみスリッパ、軍手、ポーチ: すべて百円ショップでそろろう。  
ホイッスル: コクヨ 防災用救助笛 ツインウェーブ(540円)  
メガネ: 使わなくなったものを予備として利用。



たかにともや

「備え・防災は日本のライフスタイル」をテーマに、自身が運営するWebサイト、各種メディアやセミナーを通じて防災を解説するフリーのアドバイザー。

「備える.jp」  
<http://sonaeru.jp>

文・写真 高荷智也(ソナエルワークス代表)

## 迅速な避難に欠かせない「枕元グッズ」とは?

家庭の災害対策、防災グッズのセットを購入するだけで安心していませんか? 水や食料が役立つのは、命があつてこそ。まずは「自分と家族の命を守る環境」をつくるのが大切です。そのためには「地震対策(枕元グッズ)」「緊急避難(非常持出袋)」「避難所生活(防災備蓄)」に分けて、対策と準備を行いましょう。

まずは事前の準備が生死に直結する「地震対策」です。住まいの耐震性を高めるのはもちろん、背の高い家具や重量家電の固定、棚の中身の飛び出し防止やガラスの飛散防止対策を行い、消火器具を準備します。大地震は恐ろしい災害ですが、準備が万端であれば命を守ることができるのです。

ここで重要なのが「枕元グッズ」です。特に大地震後に津波や土砂災害が想定される地域では、迅速な避難が生死を分けるため、玄関に非常持出袋を準備することが必要です。しかし真夜中に地震が発生し停電すると、身動きが取れなくなることも。そこで寝室から玄関まで素早く移動するための枕元グッズを用意することが、命を守るポイントになります。

## ベランダで楽しむ四季の寄せ植え

文・写真 黒田健太郎

## 基本の丸い鉢に夏の花を植える

寄せ植えの最大の魅力は、いくつかの植物が集まることで植物が互いに引き立て合い、1種類だけを植えたときの何倍も美しく魅力的な一鉢になることです。寄せ植えは、まず主役となる花を決めて、それに合わせる植物を選んで作ります。組み合わせによって植物の新たな魅力を発見したときのうれしさ、楽しさは格別です。

限られたベランダ空間も、季節の寄せ植えが一つあるだけで華やかな美しい空間に変わります。壁面を利用してハンギングで楽しむこともできますし、木箱や花台を使って立体的に飾ることもできます。

好きな花を主役にして、まずは一鉢作ってみましょう。自分だけの寄せ植えが、毎日の暮らしをより楽しいものにしてくれますよ。

### 手順

#### 丸い鉢は反時計回りの順番で植えると植えやすい

1 鉢穴をネットでふさぎ、鉢の高さの1/5程度まで鉢底石を入れ、その上に市販の培養土を入れる。植えこむ苗の土の高さが、鉢のふちより2~3cm低くなるように培養土の量を調節する。元肥を培養土に混ぜ込む。

2 ポットのまま苗を鉢に入れて配置を決める。この作品は、主役=黄色のガラルディア、引き



たて役=オレンジ色のガラルディア、アクセント=濃い赤紫色のヒューケラ。この3つを基本に構成。正面を決め、正面から見て目立つ位置に主役とアクセントを配置する。

3 配置が決まったらポットから苗を出す。根を傷めないようにやさしく土を崩す。枯れて黄色くなっている葉は茎の根元から取り除く。

4 12時の位置にくる植物(右配置図B1)から植える。右ききの人はそこから反時計回りに順番に植えこんでいくと植えやすい。

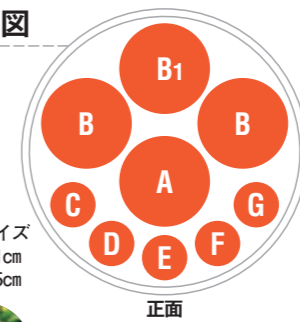


鉢のふちに近い植物は、外側に少し傾けて植えると、仕上がりが自然になる。

5 中央がやや高く、全体に丸みのあるフォルムになるのが理想。正面だけでなく裏から見てもきれに見えるように仕上げる。



### 配置図



鉢のサイズ  
直径 31cm  
高さ 25cm

正面  
A ガラルディア(黄)×1

B ガラルディア(オレンジ)×3

C タイム×1

D ヒューケラ×1

E ヘデラ×1

F プリベット×1

G ペロニカ×1

くろだけんたろう

埼玉県生まれ。園芸店「フローラ黒田園芸」勤務。自由な発想が生み出す洗練されたスタイルの寄せ植えが熱く支持されている。「12ヶ月の寄せ植えレシピ」(グラフィック社)、「寄せ植えや庭づくり」に役立つ草花の選び方・使い方ノート(共著、家の光協会)ほか著書多数。

フローラ黒田園芸  
<http://florakurodaengei.com/>

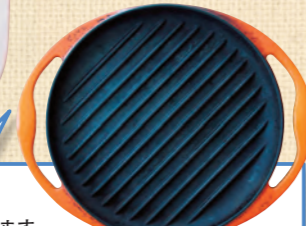


つけ合わせは明太ポテトサラダとブロッコリーとオレンジ。

豚肉は5cm程度にカットし、合わせ調味料(トマトケチャップ、しょうゆ、砂糖、酒、おろしにんにく、ブラックペッパー)と混ぜておき、フライパンに1枚ずつ並べて焼き上げます。

トマトやいんげん、にんじんなどの野菜はやや大きめにカット。オリーブオイルをかけてから塩コショウして、フライパンで焼き色がつくまでいじらずに両面焼きます。

お弁当箱にご飯を入れ、その上にお肉を並べ、野菜を盛りつけたら完成。



### 焼き目がきれいなグリルパン

グリルパンがあると、グリル料理が2ランクくらいアップします。高熱で焼き目をつけられるので、鉄製がおすすです。これは10年以上使っているル・クルーゼのグリルパン。フライパンで焼く場合は、いじらずじっくり。

## 男子弁当のススメ!

## 5 BBQ ポークライス弁当

じめじめした梅雨が終わり、真夏がやってくる。ワクワクする時季ですが、暑くなると食欲が落ちる人が増えるようです(私は落ちないけれど)。そんな時こそ、見ただけで食欲がわくようなバーベキュー(BBQ)弁当はいかがでしょうか。

文・写真 相田幸二

1975年、山形県米沢市生まれ。現在は宮城県在住。「幸せ料理研究家」としてテレビや雑誌で活躍。「こうちゃんの簡単料理レシピ」(宝島社)シリーズは230万部を超えるダブルミリオンセラーに。ブログ「こうちゃんの簡単料理レシピ」  
<http://ameblo.jp/wanwan2005/>



# UR INFORMATION

UR都市機構からのお知らせ

## PHOTO & SKETCHING

### フォト&スケッチ展2017 作品募集中!

UR都市機構では、2つの「フォト&スケッチ展」の作品を募集しています。各テーマに合わせて、皆さまの写真やスケッチをどしどしお寄せください。お待ちしております。

#### 募集1 東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2017

テーマ 「復興の歩み～忘れない、明日へ進む～」

応募規定 フォト(写真): 郵送の場合は、2Lサイズのプリントを推奨。  
ネット応募は1点あたり1MB以上5MB以下  
スケッチ: B4 (257×364mm) サイズまで。画材自由

#### 賞および賞品

大賞(フォト、スケッチ各1点)→商品券10万円分  
優秀賞・入賞 21点程度

応募方法 インターネットまたは郵送(スケッチは郵送のみ)

復興フォト&スケッチ展2017 検索

#### 募集2 UR賃貸住宅「暮らしと。」フォト&スケッチ展2017

テーマ

「あなたが見つけたUR賃貸住宅らしさ、四季折々の暮らしや団地の情景」

応募規定 フォト(写真): 郵送の場合は、2Lサイズのプリント。  
ネット応募は1点あたり1MB以上5MB以下  
スケッチ: B4 (257×364mm) サイズまで。画材自由

#### 賞および賞品

「暮らしと。」部門 大賞(フォト、スケッチ各1点)→商品券10万円分  
団地景観部門 大賞(フォト、スケッチ各1点)→商品券10万円分  
優秀賞・キッズジュニア賞など20点程度

応募方法 インターネットまたは郵送(スケッチは郵送のみ)

URフォト&スケッチ展2017 検索



復興の歩み大賞(スケッチ)

復興の歩み大賞(フォト)



団地景観大賞(フォト)

団地景観大賞(スケッチ)

※掲載作品は  
2016年の大賞作品です。

#### 応募資格(両展共通)

どなたでもご応募いただけます。ただしプロの写真家や画家の方はご遠慮ください。

応募締め切り 平成29年9月30日(両展共通)

問い合わせ 「フォト&スケッチ展」事務局

☎03-3272-6098 10:00~17:00(土日、祝日を除く)

## From Editors

一人暮らしを始めた頃は、「気楽な生活だなあ」と思っていました。でも、それに慣れるにつれて、少し寂しさを感じるようにもなりました。  
“遠くの親戚より近くの他人”と言いますが、そういう関係をつくっていくには何かきっかけがないとなかなか難しいものです。今回ご紹介した3つの団地では、三者三様のコミュニティーづくりに取り組んでいます。実際に取材に伺って、参加者の皆さんが楽しそうに過ごしていたのが印象に残っています。そして、そんな場所が身近にあることを、私はとてもうれしく思いました。(UR都市機構・広報担当)

### 「UR PRESS」オンライン版も お楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で 検索

<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>

### YouTubeでもさまざまな動画がご覧いただけます

UR都市機構の公式YouTubeでは、UR賃貸住宅、都市再生、ニュータウン、震災復興など、URのさまざまな事業や情報を動画でお伝えしています。「UR PRESS」オンライン版でこれまでに紹介した動画や、テレビCMなどもアップしています。ぜひご視聴ください。

<https://www.youtube.com/user/URTOSHIKIKO/>



## 次号のお知らせ

「UR PRESS」51号は  
2017年10月末発行予定です。

# CROSSWORD PUZZLE & PRESENT

プレゼント付きクロスワードパズル

パズル制作 ニコリ

## ヨコのカギ

- 1 たどたどしい、——な口ぶりが可愛い幼子
- 2 剣道のときに使う剣
- 3 夏の甘味。  
シャカシャカ盛り上げて、シロップをかけて召し上がれ
- 4 ——神宮 ——エビ
- 5 これからする話はまだ決定前なので——で頼むよ
- 6 ——あるタカは爪を隠す
- 9 ロープ。——引き
- 11 旧国名だと美濃と飛騨
- 14 アイスクリームの——に、チョコチップを振りかけた
- 16 ボクサーが試合のときに穿きます
- 18 夜になると道を照らします
- 20 通行証。フリー——、顔——
- 22 ダイズもアズキもインゲンも
- 24 アメリカへ行くのは渡米、ヨーロッパへ行くのは
- 25 神社で働く女性
- 26 水—— 狐—— 小麦——

## タテのカギ

- 1 新作映画の——のチケットを入手した
- 5 木を切り倒すのに使う道具
- 7 ——からばともち
- 8 ほぼ半年ごとに、吹く方向が変わります
- 10 反対の意味を持つ言葉
- 12 ——が油断を呼んでミスが起きた
- 13 写真のこと。——アルバム
- 15 ハープはこの一種
- 17 ——工作は小学校の教科の1つ
- 19 困難にもかかわらず——にやりとげた
- 21 家でくつろぐときに過ごす部屋
- 23 車を走らせ、駅と会場の間で、参加者を——輸送した
- 25 ふだんの生活の中で使われるハンコ
- 27 万の万倍は
- 28 ——・乙・丙・丁
- 29 丸太を組み合わせで作られた家

1	7	10		17		25	28
2				18	21		
		11	13		22		
3	8			19		26	29
4			14		23		
	9	12		20			
5			15		24	27	
6			16				

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

## プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

### PRESENT 1

気仙沼発熟牡蠣の  
オイスターソース 3名様

たっぷり栄養を蓄えた気仙沼産の濃厚な牡蠣から作られたオイスターソース。海のミルクと呼ぶにふさわしい風味豊かな万能調味料です。



### PRESENT 2

三陸チャウダーセット 5名様

三陸地方特産の食材をふんだんに使用した海鮮チャウダー。南部どり入りグリーンカレータイプの「大船渡チャウダー」、気仙沼産ふかひれ入りクリームタイプの「気仙沼チャウダー」、南三陸産たこ入りトマトクリームタイプの「南三陸チャウダー」の3種をセットで。



### PRESENT 3

熊本限定販売  
球磨焼酎「よけまん」3名様

熊本の良質な水と米にこだわってつくられた本格格焼酎(25度、720ml)。「よけまん」とは方言で、おやつ付きの休憩のこと。くまモンラベルの熊本限定販売品です。



#### 応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

※応募はがきに記載の2次元バーコードからもご応募いただけます。

#### 応募締め切り

2017年10月31日(当日消印有効)  
当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

## 49号の解答

A マ B チ C ツ D ク E リ

1	ウ	デ	タ	12	フ	セ	23	ヤ
		ツ		9	ツ	キ	21	キ
2	ワ	ニ		13	マ	ン	18	ジ
		ク	10	サ	リ		19	ユ
3	シ	ジ			マ	ン	17	ジ
4	シ	ヤ	カ	14	イ	カ	22	ユ
5	ヨ	ガ		15	ノ	ロ	20	シ
	ク		11	イ	チ	ニ	マ	エ